

普及活動情勢報告（平成28年12月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

年末の最需要期に出荷を ～JA高知市長浜支所園芸部花卉部会ユリほ場巡回～



出荷時期を探り中

11月10日、JA高知市長浜支所園芸部花卉部会では、年末出荷用のユリほ場巡回を行いました。今年は秋季の高温で、出荷時期の前進が心配されましたが、多くの生産者が、高温の長期化を見込んだ定植や温度管理の調整により、ほぼ予定通り出荷できることが確認できました。

ほ場では、年末の最需要期に正確に出荷できるよう生育ステージに合った夜温管理など、熱心に互いの意見を出し合いました。

今後は、今年始まったオリエンタルユリでの炭酸ガス施用試験の結果を含め、安定生産につながる技術情報を提供し、所得向上に向けて支援していきます。

インターネットを活用したビジネス展開について学習しよう！ ～鏡村直販店組合～



インターネットの世界を学び中

鏡村直販店組合では、高知県産業振興アドバイザー制度を利用してインターネットを活用したビジネス展開に関する講演会を11月29日に開催しました。13名の理事と店舗職員を対象に、インターネットの世界での情報拡散ツールの種類や効果的な集客へのつなげ方などについて、県内の農業者の事例を交え学習しました。参加者からは「まだまだなじみが薄いですが、直販所に向いている情報拡散の仕方について、検討していきたい」という声も。

今後も引き続き、インターネットの活用について地域APチーム会で検討していきます。

来年開催の担い手サミットをよろしく ～高知市地域実行委員会



現地研修コースなどの案を提示

平成29年度開催の「第20回全国農業担い手サミット in こうち」に向け、高知市地域実行委員会では、委員・幹事を中心に準備を進めています。

平成28年12月8日、高知サンライズホテルにおいて、JA高知市青壮年部研修会の場で、普及所からサミットについて説明する時間を頂きました。参加した約30名の青壮年部員に対し、高知市地域実行委員会の体制や、現時点での内容計画を紹介することができました。

今後も機会を捉えて、「農家が主役」となる大会が成功するよう関係者の方々の理解と協力を得ていきます。

キュウリのさらなる収量アップを目指して ～環境制御技術勉強会～



熱心な意見交換

12月12日にJA高知春野で生産者20名の参加で、環境制御技術の勉強会を行いました。普及所はさらなる収量アップを目指した実証ほ（炭酸ガス濃度500ppm以上）の状況を説明しました。

生産者からは「オランダ型の温度管理に取り組む方が良いか？」「プレナイトドロップをすると生長点近くの雌花が着果しない」などお互いに意見交換を行いました。また、「現地研修を行い、知識を深めよう」という提案もあり、12月20日に生産者12人が現地研修を行いました。

今後、「生育診断を行いたい」という生産者の意見もあり、普及所は実証ほだけでなく、篤農家の生育状況の把握と生育診断が行える生産者の育成支援を行っていきます。

進めよう、中山間の集落営農組織の連携 ～集落営農塾～



進め！集落営農！！

12月12日、高知市鏡地域中山間地域構造改革センターにおいて、集落営農塾(中山間部)の組織化・ステップアップ講座を高知市鏡地域振興課、JA高知市などの関係機関とともに開催し、集落営農組織のリーダーなど生産者8名が参加しました。

JA高知市営農指導課の鳥獣害対策専門員の久保氏から鳥獣害対策について、いの町上東地区の上東地域営農組合の代表の和田光正氏らから集落協定の合併のメリットと稲・野菜の協同栽培についてご講演を頂きました。参加者からは、稲の受託面積増や有望品目、後継者の確保について多くの質問が出、和田代表から丁寧な説明を頂きました。

伝統作物のことをもっと知ってください ～伝統作物セミナー・商談会



由来や特徴、生産状況なども
説明しながら商談

平成28年12月13日、高知共済会館において、高知市が主催、「Team Makino」運営による『伝統作物セミナー・商談会』を開催しました。

セミナーでは集まった67名に対し、(株)三越伊勢丹フードサービス雨宮部長から「伝統野菜を売る！」と題した講演会を実施。その後は、安芸市から四万十町まで4つの伝統作物の生産組織がブースを出展し、県内の青果店・料理店を始め、県外バイヤーとも商談を行いました。

普及所は「Team Makino」事務局として運営に携わってきましたが、今後も引き続き伝統作物の知名度を高める活動に取り組んでいきます。

地域で助け合い、できることから始めよう！～作業受託組織「土佐舟入ファーム」設立～



設立総会の様子

12月19日、高知市大津にて「土佐舟入ファーム」の設立総会が開催され、農家、JA、高知市等9名が参加しました。この組織は、関・長崎集落の4名の農家等で結成され、協力して稲作を行う体制を整えることを目的に設立されました。耕起、田植え、稲刈り等、水稻の機械作業を中心に受託活動を行う計画です。将来的には共同機械の導入や米の共同販売など集落営農への発展も視野に入れています。濱田組合長から「精一杯がんばっていきたい」と決意の挨拶がありました。

普及所では、「土佐舟入ファーム」の安定経営と発展に向けて支援を行っていきます。